

府立学校・市町村立小中学校本格再開についてのご意見

委員	意見
朝野座長	<p>6月12日までの(20人体制による)ソーシャルディスタンスに守られた期間は、大切な児童、生徒に自らの健康を守る習慣(新しい生活様式)を身につけさせる重要な時期と考える。</p> <p>医療現場では、お互いにマスクをしていれば濃厚接触には当たらないとしている。したがって、常時マスクをし、不用意に顔をさわる習慣をなくし、周囲の環境にふれた場合には手洗いを励行する、という新しい生活様式に慣れることが、まず第一段階と考える。</p> <p>そのような意味で、クラスの人数を20人としてソーシャルディスタンスを保ちながら、新しい生活様式を身につけ、その後に通常の学校生活をスタートするという手順は適切だと考える。</p> <p>児童、生徒諸君に6月12日までの期間は、新しい生活様式になれるための訓練期間であることを十分に説明し、習慣としてそのような生活様式が自然に実践できるように指導をしていただきたい。</p> <p>6月12日までの期間こそが、これからのコロナウイルスとの共存のなかで大切な児童・生徒に、自らの健康を守るための方法を身につけさせる重要な時間として教職員の皆さんには御指導をよろしくお願ひしたい。</p>
茂松委員	<p>1学級の生徒数の規模を変更するには、潜伏期間相当の2週間の状況を確認した上で行うことがよいと考える。</p> <p>高校生は、公共交通機関を使うため、時差登校等もできればよいが。</p> <p>毎日必ず、検温を行うこと。学校でもできるように。</p> <p>部活動については、基礎体力作りから徐々に。いきなりフルは避けた方がよい。また、ボール等の道具類は消毒をした方がよいと考える。</p>
砂川オブザーバー	<p>特に小学校低学年においては、対面教育の重要性から優先的な再開が必要であると考えます。</p> <p>本格的な再開に向けては、段階を踏まえた慎重な検討・判断を要すると思えます。第2段階、第3段階をそれぞれ2週間程度に延長してはどうか、それで問題が無ければ、7月から第4段階ということでもどうか。ただし、ゼロリスクはあり得ず、予防的に最小限になるように努力しつつも感染者が探知された場合、関係部局と迅速に連携を取り適切な対応を取り、前向きに教育を行っていくことが最重要であることを改めて共通認識としていただきたい。</p> <p>前述とも重なるが、ウイルスと共に生きる、の観点からは、「児童生徒等又は教職員に感染者が確認された場合」に、「保健所の指示及び助言を踏まえ、学校における感染症拡大防止に必要な対策及び学校運営上の体制整備を行うために必要な期間及び範囲を臨時休業期間とする。」の中に、「(最悪のシナリオとして)臨時休業は含まれる」のニュアンスを残しておけばよく、直ちの学校休業を言明し過ぎずとも良いように感じた。報道では、フランス全土で小学校再開後1週間の児童の新規陽性者は70人(対象140万人)であったものの感染の大半は学校外で起こったというもので、一名の陽性者で学校全体を直ちに臨時休業とすべきかどうかは、保健所等との協議を迅速に行き決定、でも良いかもしれない。</p> <p>数年単位はかかる可能性を考慮して、また、「新しいノーマル」に前向きに受け入れ、適応する観点から、(特に中学校以上を意識して)リモート学習などの導入促進などの文言があっても良いように思う。</p>